

千葉商船、船隊を拡大・多角化

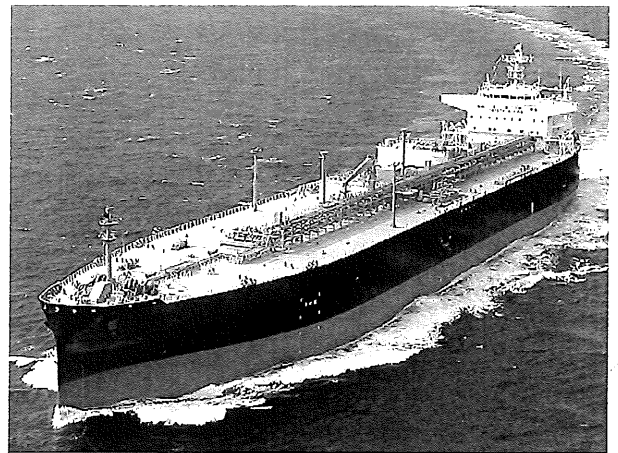
■パナマックス発注へ、初のLPG船も取得

千葉商船(本社=千葉県・佐原、営業拠点=東京、木内弘幸社長)は船隊を拡大、多角化している。船隊規模は現在、既存船16隻、発注残6隻の合計22隻。これに加えて近く、新来島どっくに7万8000トン型のパナマックス・バルカーを発注する予定だ。また、このほど同社初のLPG船を保有した。円高などによる経営悪化や金融機関の融資姿勢の厳格化で多くの国内船主が新規の発注に踏み出せない中、千葉商船は強固な財務基盤を背景にオペレーターなどの船腹調達、オフバランス・ニーズに答えている。

千葉商船はVLCCを保有する国内で数少ない専業船主。VLCCは現在保有している“日章丸”を含めて延べ10隻を保有した実績がある。オペレーターのニーズに応える形で船隊規模を拡大してきた。現在、円高や船費の高止まりによって業績が悪化している国内船主が多く、ファイナンス事情からも船隊を拡大できる船主は限られる。その中で、同社は財務体質の改善を進めてきており、金融機関からの融資を獲得し、オペレーターの船腹調達、オフバランス・ニーズの受け皿になっている。

今年に入り、VLGC(大型LPG船、8万m³型)を保有し、国内オペ

レーター向け長期定期用船に出している。千葉商船にとって初のLPG船になり、保有船の船種が広がっている。既存船隊はVLCC1隻、VLGC1隻、プロダクト船2隻、バルカー8隻(カムサマックス1隻、ハンディマックス3隻、パナマックス2隻、ハンディサイズ1隻、レイカー1隻)、自動車専用船1隻、コンテナ船2隻、冷凍船1隻の合計16隻となっている。



保有船の船種が拡大している

さらに来月、新来島どっくにパナマックス・バルカーを1隻発注する予定。同船の納期は2012年9月で、貸船先は国内商社になる。これにより発注残は7隻(オーバーパナマックス1隻、パナマックス1隻、ハンディマックス1隻、ハンディサイズ3隻)になる。

貸船先は国内の船社、商社が中心だが、近年では海外オペレーター向けの案件も手掛け始めた。海外向けは発注残を含めて6隻になっている。

千葉商船の発注残(予定含む)

船種	重量トン	造船所	竣工年(予定)
パナマックスBC	8万3000	サノヤス・ヒシノ明昌	2010
ハンディサイズBC	2万8050	今治造船	2011
ハンディサイズBC	2万8000	今治造船	2012
オーバーパナマックスBC	11万6000	サノヤス・ヒシノ明昌	2012
※パナマックスBC	7万8000	新来島どっく	2012
ハンディマックスBC	5万8000	川崎造船	2012
ハンディサイズBC	3万7300	今治造船	2012~13

※は発注予定船